

福岡県宗像市（国内9例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和2年11月25日実施）

令和2年11月25日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、平野部につながる丘陵地の中腹に位置し、付近は竹林に囲まれている。
- ② 農場敷地の周囲に複数のため池があり、発生鶏舎から最も近いものまでの距離は約40mで、現地調査時にはカモ類は認められなかった。また、約200mの距離にあるため池ではカルガモ35羽とマガモ24羽が、約350m離れた位置にあるため池ではマガモ6羽が確認された。
- ③ 当該農場は公道を介して3区画に分かれており、全12棟の鶏舎のうち、北部の区画には7棟、約100m離れた中間の区画には2棟、さらに約250m離れた南部の区画には3棟があり、全て平飼いの開放鶏舎であった。発生時には全ての鶏舎で肉用鶏が飼養されており、発生鶏舎は北部の区画にある最も奥に位置する鶏舎であった。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎における1日あたりの死亡鶏は、11月以降0~8羽程度で推移していたところ、11月24日に38羽<sup>注)</sup>の死亡鶏が確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 管理人によると、11月24日の死亡鶏は発生鶏舎内に散在していたとのことであった。現地調査時にも、発生鶏舎において、多くの死亡鶏が散在、生鶏の活力低下が確認された。

注) 家畜保健衛生所が最初に農場から聞き取りした死亡羽数は37羽とのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では3名の従業員が専属で管理を行っており、管理人によると、基本的に毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行っているが、一日空いてしまうことがあるとのことであった。
- ② 管理人によると、従業員が担当する鶏舎は決まっておらず、すべての従業員がいずれの鶏舎においても作業する可能性があるとのことであった。
- ③ 従業員の担当業務は厳密に固定されておらず、すべての従業員が鶏と接触する機会があるとのことであった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していた。また、鶏舎毎に専用の長靴と踏み込み消毒槽を設置していたが、鶏舎毎の手指消毒は実施しておらず、手袋の交換も行っていなかった。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、井戸水がいったん農場内の貯水タンクに貯蔵され、パイプによって各鶏舎に供給されている。
- ④ 鶏舎から排出された鶏糞の処理施設には防鳥ネットは設置されていなかったが、管理人によると、作業時以外はビニールシートをかけているとのことであった。
- ⑤ 健康観察時に回収した死亡鶏は、鶏糞の保管施設内にて堆肥化処理を行っている。
- ⑥ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。

- ⑦ 管理人によると、農場敷地内には消石灰散布はしていないとのことであった。
- ⑧ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、農場の南側の区画の入口に設置された動力噴霧器により消毒しているとのことであった。しかし、南側の区画から中間及び北側の区画に移動する際は、公道を通らなければならない、中間及び北側の区画に入場する際の消毒は実施されていなかった。
- ⑨ 発生鶏舎の側面は金網（マス目は約 2.5×2.5cm）とその外側に、上半分にはロールカーテン、下半分には跳ね上げ式の窓が設置されている。管理人によると、発生時には、跳ね上げ式の窓は終日閉じており、ロールカーテンは、日中は半分程度開放しており、夜間もすべては閉鎖せず、一部開放していたとのことであった。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎の側面の金網には一部に破損が認められたが、いずれも修復されており、外側のロールカーテンや跳ね上げ式の窓にも目立った破損は確認されなかった。ただし、鶏舎前室の壁面には小型の野生動物が侵入可能な 3cm 程度の隙間が確認された箇所があり、前室と鶏の居室の間の金網は上部が開口していた。
- ② 管理人によると、鶏舎外ではネズミを見かけることはあるが、鶏舎内でネズミを見かけることはないとのことであった。このため定期的なネズミ対策（殺鼠剤の設置）は行っていないとのことであった。